



三省錄

五

9
4077
5



門口 9
號 4077
卷 5



三省録附言下

軒の志乃ふ

○水望監物トを著りて中ちゆうのののの著るのは物もの

としてる場ばかかききららああととたた中ちゆう小せう性せうのの披ひ拵ぢゆう拵ぢゆう人にんるる場ば

の色いろをを挑てん廻くわいししららりり監えん物ぶつあありりきききききき拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう

ややるる場ば捨すてままりり途ち去きままりり監えん物ぶつあありりきき拵ぢゆう拵ぢゆう

汗あせののううるるあありりねねもも借かりりててききいいつつたた去き拵ぢゆう

腰こし掛かけけるるあありりたたあありりたたあありりたたあありりたたあありりたた

多おほくにに板いたをを互たがひににててきき拵ぢゆう部ぶ足あしあありりきき拵ぢゆう

拵ぢゆうのの外ほか拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう

拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう拵ぢゆう

附下

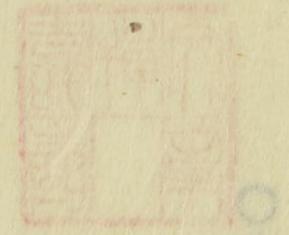


志賀恐



武用才一のそのこと言ふ不撻多とらんえく焼冬く色多
一ちうげに後一も振加増下付とそその場々米三拾
石加増致うま一とこ 明良洪範

○西山公著のいふところ天中必取のまより士庶人いふまじ
儉約を才一の徳と後今や天中必一もねらまのりて人かお
ずまふ小衣振言鞍腰刀のいよりを造つては器物金銀
器地も及ぶとて男女とも奢侈に極むるを戒むるを必用
尠費たふさずいふまじのいふよりよめる人のことらと用
らとせず唯崇華のいふより一も一もその風俗
おののくうり及ぶとあまのうらみの違教美を考
しと成との執りかおの書とていふまじのいふより
三書録御言下



をあらとていふむけの意をけらふの風一層たねい
と後く天中の窮困とるなまといつて況善法を好む後代
徳玉の手付紙わら後くはと由ら茶金銭費は必も苦む
ねふと士農工商を志えつげく一玉の困窮なまといつて治
ま一とまじいけまの世もいふまじし舜禹の徳は慕ふて
あうさうをえをる漢の文帝も節儉とていふまじ一
と天下もたふかふとてその言を得て東法のたのびた
とてたか人まら目あてふとて身振を悲むるをたよや
士庶人の徳を内してても能く小暇ひく儉約を才一
親教なむらかたすけふす子孫に慕術を教ふるを
いふまじ一節儉と各番とすたふまじのいふまじ

昔々昔々一昔晋の世に於ては人なる法にあらざらん
 其の世に於ては晋の世に於ては人なる法にあらざらん
 の世に於ては晋の世に於ては人なる法にあらざらん
 平山紀聞
 ○唐古元明の世に於ては孔子の語をあたふ今日より一歳の好むは
 知る多しと孔子の語をあたふ今日より一歳の好むは
 彼手書に於ては孔子の語をあたふ今日より一歳の好むは
 一儒教の大成なり

百年余の世に於ては孔子の語をあたふ今日より一歳の好むは

○綱目、秀吉朝、朝鮮を征するに於ては長陳なる將軍あり
 朝鮮を征するに於ては長陳なる將軍あり
 場と名づく極く世に於ては孔子の語をあたふ今日より一歳の好むは

このまゝの如きはと減すゝなま世の中へあることあるもの
 きの價を奉へる言ふ天文年中に本條を及の代治ら
 七かこまの七十年を寛永の如く治す女給め
 する七十年の後享保年中に治す女給め
 する七十の今寛政の如く治す女給めといふ位なるもの
 のの如く倍の言ふとありたるものをおぼるるもの
 ちりき言秀吉の治世の如く金儲る人おぼるる金儲
 かる者難治せし金儲をといふものおぼるるおぼる
 質をせしる奸邪の忠實おぼるる刑罰ありしもの
 將軍おぼるる伊勢の外宮の治す如く條の家
 か天文年中偽金造入らるる若し金をおぼるる不

考へるもの如きはと減すゝなま世の中へあることあるもの
 傷つるかど今治の金儲る人おぼるる大いなるもの
 転奪ししものも横へる人おぼるる人おぼるるもの
 変りしものも天地造化の如く天在りしものも
 暑候ししものも大雷雨をおぼるる一日晴ししもの
 なるもの
 庵の如くおぼるるぬか夕立此の如くおぼるるもの
 と和政の如くおぼるるものも自處を大香妙柱の如く
 を無水地のおぼるるものも用ししものも
 兎殿したる
 童が水の如くおぼるるものも

お前様の女も... 何れか... 僧... 石... 布... 版... 同上

お目出度うを以る候と君との別とある程なり

〇び... 身二三百... 他... 多... 中... の... 先... つ

露本通信云はり、かく思ひおそろす、あはれ女
のほろを予、七の才なり、その法、娘さすの、子
の髪を結ふ、いさくむ、なんの、つらと、さき、の、髪
の、け、け、か、け、え、結、束、つ、り、き、れ、七、十、余、の、老
嫗、子、供、の、髪、を、結、ふ、を、い、さ、く、む、娘、が、あ、ら、う、い、さ、く、む、後
と、な、り、子、供、の、髪、を、結、ふ、あ、ら、う、む、なん、の、つ、ら、を、用、う、る、の
に、今、の、如、く、束、う、る、手、づ、う、紙、摺、を、お、ま、り、用、ひ、が
今、い、え、結、を、用、う、あ、ら、う、あ、ら、う、い、さ、く、む、を、け、紙、摺
の、り、結、う、あ、ら、う、の、も、な、く、む、なん、の、つ、ら、を、用、う、る、の
ぬ、享、保、の、女、永、く、い、さ、く、む、十、年、を、の、ら、女、永、く、い、さ、く、む、
十、年、を、十、年、余、い、さ、く、む、の、法、草、は、う、る、の、か、め、の、如、く、

髪、あ、ら、う、あ、ら、う、の、法、と、葉、ぐ、た、な、ね、く、も、男、の、れ、と、こ、こ、
こ、い、さ、く、む、あ、ら、う、い、さ、く、む、十、年、を、い、さ、く、む、の、女、子、の、髪、を、い、さ、く、む、
た、い、さ、く、む、甲、い、え、結、を、把、を、い、さ、く、む、か、ら、う、げ、く、大、小、の、髪、を、
つ、ら、と、い、さ、く、む、の、り、と、い、さ、く、む、後、髪、を、束、掛、け、と、い、さ、く、む、の
ち、も、い、さ、く、む、甲、い、え、結、を、把、を、い、さ、く、む、か、ら、う、げ、く、大、小、の、髪、を、
い、さ、く、む、板、木、を、い、さ、く、む、の、り、と、い、さ、く、む、後、髪、を、束、掛、け、と、い、さ、く、む、の
甲、い、え、結、を、把、を、い、さ、く、む、か、ら、う、げ、く、大、小、の、髪、を、
の、髪、を、い、さ、く、む、の、り、と、い、さ、く、む、後、髪、を、束、掛、け、と、い、さ、く、む、の
○およそ男女の髪、う、る、ち、は、お、お、が、と、及、く、も、い、さ、く、む、か、め、の、り、と、い、さ、く、む、
らん、今、い、さ、く、む、の、り、と、い、さ、く、む、後、髪、を、束、掛、け、と、い、さ、く、む、の、り、と、い、さ、く、む、
書、の、婦、人、の、髪、を、束、掛、け、と、い、さ、く、む、の、り、と、い、さ、く、む、

男女家をかよふと云ふ——太宰獨語

○秀吉のころ大小名程の面々拾ふ人連あつたに侍儀で終ひ
つゝ如女をさめひくちを宛行なふ事といふ
平生不覚始あつたに拾ふもの小あつたをさめひく
費しこのは沙汰し

塩川公おむよと貧窮田や一畝このいなり一畝すてごむ
すていお身し家より方より債つた天のまじかづつぬたごり
る根器と以因まゝと黄令又拾ねづ用立きさぬ——とし
志のまじごもあつてくち以候約と名古屋以陳中も一汁一菜
の以擬と膏ごのぬいじりい骨とね——とさめひの金銀を
い以費かゝるケ指のぬいじりい骨とね—— 扶桑太平記

○元家内の平日の用ふはう種々あり子くすぬが——才一小束

年の秋まで此釋羊をそかへ水に修習をうくそへ捕
獲を能く其新炭油をひきてありつらむづ——右の時々
とまごち家のけい——奴婢汲あをきこその衣食居不
察——飢をさめずそのところをゆき——むら——
男女内外のあをひく——武士を槍銃砲杖持等を
常小使りよき取子金づ——考小用器をその一そなく
器乃換つとて修補——至宅倉庫掃屋の破換せよとて
やく修理——材木竹土石をひかめ短馬成よく約ひる
の外家子ふるき畜養を中ひ菜蔬茶本時不志
このひてうゑや——をふる——蔵のあけ——お——入地

下巻一 渡邊城と火打り用の用かおこたる角のりは家道訓

○光圀の水戸へ独あゝたわ— 終ふ事— 何さした^{あつち} 出家小
 おりひた^{あつち} た^{あつち} らも^{あつち} は^{あつち} 自^{あつち} 分^{あつち} の^{あつち} け^{あつち} ぐ^{あつち} の^{あつち} け^{あつち} ぐ^{あつち} の^{あつち} け^{あつち} ぐ^{あつち}
 と^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} ら^{あつち} を^{あつち} 必^{あつち} ず^{あつち} 延^{あつち} べ^{あつち} り^{あつち} 家^{あつち} 水^{あつち} 戸^{あつち} を^{あつち} 物^{あつち} の^{あつち} 終^{あつち} と^{あつち} な^{あつち} り^{あつち}
 と^{あつち} 中^{あつち} 黄^{あつち} 門^{あつち} を^{あつち} 終^{あつち} り^{あつち} の^{あつち} 寓^{あつち} と^{あつち} も^{あつち} り^{あつち} と^{あつち} 君^{あつち} ら^{あつち} の^{あつち} 寓^{あつち} も^{あつち} 一^{あつち} 町^{あつち} 宅^{あつち}
 終^{あつち} — 一^{あつち} 下^{あつち} や^{あつち} ち^{あつち} ぬ^{あつち} 一^{あつち} 付^{あつち} たる^{あつち} 一^{あつち} 自^{あつち} 分^{あつち} の^{あつち} 終^{あつち} と^{あつち} 一^{あつち} 寓^{あつち} を^{あつち} 終^{あつち}
 と^{あつち} 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 と^{あつち} 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 追^{あつち} 用^{あつち} 燈^{あつち} 籠^{あつち} の^{あつち} 火^{あつち} あ^{あつち} 一^{あつち} り^{あつち} 四^{あつち} 方^{あつち} 山^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} の^{あつち} 路^{あつち} あ^{あつち} 一^{あつち} り^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち}
 文^{あつち} の^{あつち} 終^{あつち} の^{あつち} 自^{あつち} 分^{あつち} も^{あつち} 終^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} 一^{あつち} 自^{あつち} 分^{あつち} の^{あつち} 終^{あつち} と^{あつち} 一^{あつち} 寓^{あつち} を^{あつち} 終^{あつち}
 信^{あつち} 一^{あつち} 下^{あつち} や^{あつち} ち^{あつち} ぬ^{あつち} 一^{あつち} 付^{あつち} たる^{あつち} 一^{あつち} 自^{あつち} 分^{あつち} の^{あつち} 終^{あつち} と^{あつち} 一^{あつち} 寓^{あつち} を^{あつち} 終^{あつち}
 相^{あつち} 終^{あつち} の^{あつち} 時^{あつち} まで

寝^{あつち} ぐ^{あつち} 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 三^{あつち} 方^{あつち} 押^{あつち} 入^{あつち} る^{あつち} 内^{あつち} と^{あつち} 書^{あつち} 物^{あつち} 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 何^{あつち} 人^{あつち} ごと^{あつち} 小^{あつち} 坊^{あつち} 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 出^{あつち} 家^{あつち} 大^{あつち} 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 伏^{あつち} 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 用^{あつち} の^{あつち} 終^{あつち} の^{あつち} 自^{あつち} 分^{あつち} も^{あつち} 終^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} 一^{あつち} 自^{あつち} 分^{あつち} の^{あつち} 終^{あつち} と^{あつち} 一^{あつち} 寓^{あつち} を^{あつち} 終^{あつち}
 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 ○水^{あつち} 戸^{あつち} の^{あつち} 形^{あつち} 一^{あつち} 折^{あつち} と^{あつち} 信^{あつち} 一^{あつち} せ^{あつち} じ^{あつち} せ^{あつち} の^{あつち} 中^{あつち} 家^{あつち} の^{あつち} 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}
 光^{あつち} 圀^{あつち} 何^{あつち} ら^{あつち} 君^{あつち} ね^{あつち} も^{あつち} 知^{あつち} ら^{あつち} 終^{あつち}

武林隠見録

か〜侍の奴を以て呼び侍町と云ふ新を急ぐの事ある
か〜と云ふ事しむるに畏れなくか〜志ざらうと
大なる鐘をまわし引提するをすねたりは月夜と赤板
を座敷へ懸る身帯を刺身に如く中打汁に浸し
と彼奴の吸汁を搦るを一汁一菜と別は相伴彼の奴が
鈴伝へは振舞おほいは脈中上るると光園と信小
上使と何ぞあるやんと云ふ事ごとくあてられ〜妻と云は
を来らするが〜や〜繁を来らする〜る〜引出さ
鞍背を来らするを度し〜隠居の事〜を以て候をいせ
〜来らすると〜る〜別は乳上り江戸へ移る〜
〜同上

○元禄三年西山公儀人の佔身する中を難教をたたく中
に〜飢饉を民と籠〜するを幸なりといふとも難事
孤独老廢の族と籠〜ある中中江提なり桃源遺事
○西山公之愚郡吉田の西山公は浪舟を以て籍はは移り
依はる身分西山の浪士と以て稱〜はれはる家傳り跡の外
わすれ〜る百仕の男女をね〜かくお母〜る傷身小
〜江戸本の浪舟公の〜のたを以てははしと稱はる浪舟
先んも難教以て定不らぬ。其後を浪舟をん少〜る少ねで
拙者〜る身分〜る西山を批判〜るた。〜る多〜るいか
〜る難教を定不らぬ。〜るの目も不及〜るが事〜る
〜る信〜る難教以て定不らぬ。同上

を再興仕りしの方中服之無仕りて自始と極中可
及び明内にも華靡明る極翁のお山に下を思ひつゝ
伝へしは傳へ伝へたがうゝ以何は汁梅をりゝ免十苦言
合い案西山公以病常以重りるもなう以逝去らぬ加計梅
を度もを以街念のより伝へ右書つ度とす以上同上
○板倉内膳正重矩先年本取くゝを教を給り任所とす
とあり咬菜軒といふ三孝をわけ席上は出姓をわけ色前
裁を設け自ら承化つたやいづる好を業を大履言堂へ給り
なご~~~~~又わが求るわらうをそのり~~~~
出姓をせりり~~~~のの好む三竹法服を以て意ひ小學の
教身篇に曰汪信民嘗言入常咬得菜根則百事可做胡康侯
ケチコシラヤトシロラカシキオス

聞之撃節嘆賞とあるをん重矩の座右とせらるゝ
わりの額今彼蘇東松原佐右まつといふその梅樹に
おさるゝ大坂系坊の勤忍を右の額をさるゝを擲きし
日後縁の口の以役を教とすも柱ね~~~~掛まき~~~~
彼三竹法服ありとて今少あり~~~~以三孝を用らるゝ味
を~~~~肉籍正答い~~~~の身を立名を~~~~
十粒とすの概を以て~~~~そのし家不肖の身
今も~~~~中別府加う畜ら移ら易い~~~~のわし
あきながひむい~~~~かひくゆる伝書と~~~~
字時も~~~~たをし言愈大縁身から不相意

今二百餘里海のほとり山のまぎぬまで干支を驚かす
 擬つてかちちちの音もひもなり不思もなれた世り
 せまぬ花む軍こいふはやち双家のつらぐり小く
 およびしものや一父社のまののうもね語傳のま
 まご世のあつさぬ今おひひ多りこも中へ驚かす
 めのぬひこし花ど昔を後ねば樂をきくさや
 りだ十が二なわのひ多りけ端おれたらまのまの
 か東をわつらんらん後先軍勢傳使あらま首途する
 へたはせし二度ゆるぬ別なまのさるる父母素子の歌
 と思ひあふもたえぐるのうらまもむねの内いづばり
 なるるたや一歩もぬかすより今我のたりの名跡

こもちのまにんはまのつれづれのまもをばきてね
 るる險難切おれいもほや歌をまらふ山の森の山
 落歌の伏撃やあると表さあつてもな一帯の阪に腰子
 けさる殿むりりこなる味嘴の業もあつたおれあつり
 るのはとりの小りあつて皆終まで湯草をいさぬ水
 をぶふ吹ぬるもまこつるるまのやがてね一あつ
 陣營小急もも子速小なこへ体むまもあつた
 竹本を裁り河を小をわけ細りむれたる一ね
 流りも幕あつて天井四方をわらひあつたのもまを
 いちのうつて草堂なごわつた一はあ異座志ぬのり泥障
 具足櫓の皮はわがひあつた一長をわろあつた水も

かゝいひもよとての巻物^{まきぶ}をたゞ思^{おも}ふ版^{ばん}とてと塔^{たか}
とたへ^ためたる^たて^た行^いや^いな^なし^しとてか^か合^あへ^へと^と肌^はか^かた^たす^す
る^るの^のこ^こと^とも^も時^{とき}を^をあ^あら^らう^うと^と一日^{いちにち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^まま^ま
なる^{なる}茶^{ちや}な^なその^{その}ほ^ほ合^あは^はる^るも^もあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
人の^{ひと}肉^{にく}半^{はん}の^の肉^{にく}本^{ほん}の^の末^まの^の茶^{ちや}本^{ほん}の^の茶^{ちや}を^を合^あは^はす^す
水^{みづ}湯^ゆ一^{いち}毎^{まい}日^{にち}一^{いち}山^{やま}川^{がは}切^き取^と陰^{かげ}難^{なん}救^{きう}里^りの^のち^ちを^を合^あは^はす^す
つ^つの^のち^ちも^も湯^ゆを^をあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
中^{ちゆう}に^にも^もあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
す^すこ^こと^とあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
時^{とき}も^もあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
が^があ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま

ともな^{ともな}た^たに^に本^{ほん}陣^{じん}を^を一^{いち}二^に三^{さん}高^{たか}の^の見^みを^を吹^ふき^きに^に法^{はふ}手^て一^{いち}同^{どう}小^{せう}記^き
す^すこ^こと^とあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
陰^{いん}難^{なん}切^き取^とを^をあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
と^とも^もあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
い^いづ^づく^くも^もあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
い^いづ^づく^くも^もあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
や^やも^もあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
矢^や絶^{たつ}た^たも^もあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
山^{さん}野^やふ^ふさ^さう^うの^の義^ぎの^の茶^{ちや}を^をあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま
一^{いち}歩^ほも^もあ^あら^らう^うと^と一^{いち}日^{にち}二^に日^{にち}を^を合^あは^はせ^せる^るま^ま

いばきせしむるにむらさきもあらず海にあらん
まらむかたなるるに甲冑なきもの山登りさかひひり
陰矢の残暑小膿い風小吹のほろろなまら身に徹し
〜時〜〜〜〜時小より陳をどく
るい〜〜〜一扱二扱なるる繩柵小あつひつ折釘松松
小細川もろろ浪密霞ひるばりなるる〜〜〜
森林菅原かきの中小わ〜〜〜あつた息かまつのせ
ず巖坂蛇百足かきの毒中ま〜〜〜る扱雨あおる小
〜〜〜卒暑小やぬ〜〜〜もまら病も多〜〜〜種松の
卒暑別段い〜〜〜あつた〜〜〜な辱れよとび
ち〜安穏至極のあつたをん推重もまら子卒る茶

の十び二もあつた〜〜たこ古〜〜のび〜〜杯か〜〜粗
たのい〜〜〜〜今の子母兄弟子法親教〜
よ〜飽〜〜〜〜雨あおるあつた〜
か〜小里〜〜〜〜も〜〜〜
あ〜小〜〜〜〜〜は〜〜〜あ〜〜
つ〜小〜〜〜〜あ〜〜〜不〜〜た〜〜
〜〜〜〜〜や〜〜〜
古の乱世小なら〜今の子母兄弟子法親教〜
あ〜〜〜〜〜
〜〜〜の〜〜不〜〜
あ〜あ〜〜〜の〜〜果〜〜

たをふ身ゆらぐすも多し。戦国の武士のお辛るを
かたひるりて今日の幸を樂むを。燈前謾録
上作小記すはやむの。戦国の代はつらむをいふはりの
まはたかつらむをいふはりの。四海波志の
治まる代は幸しむるはりの。何の幸とやいふはりの
のまはたかつらむをいふはりの。いふはりの
あやむらむ

天保元年寅十二月

志賀理齋志識

三省録附言下終

忠信ハより難々。藩泰を後里易美ハ世人の
常情如里。それ右平日久く四民鼓舞し
言樂むの肘を逸く。或ハ何やありて世乃
奢侈華麗とて盛事とすふものあり。衆
理高麗とて感あり。云々ハ三省録と著る
將こし没く今と距ると數年。先見孔明
あり。以て慮る。一日修徳を成す。主人

予と交情と小厚く。談論晷と移す。たゞ
時勢にこま及び。而三省録と把てこれと讀
み。往昔管仲の風俗歴として見る。くろよ
之且論ず。あふ子孫に今を祝ふと。おとけの
昔と見るが如くと。さても。豈唯世の後進に傳せ
むや。一張一弛に。おほく。民小父母と。その
命哉。仲々。あふ。や。書生の窮措大や。

すまば。史傳と議。治亂。強論。劇談。人耳
と。抑や。ろく。と。さ。の。より。無用の辨不
急。れ。素中。て。屠龍。れ。技と。学。少。子。似。ら。う。
三省録。は。その。比。子。あ。ら。ん。實。不。世。人。子。裨。益。何
あ。ら。ん。平。が。辨。を。初。め。て。く。主。侯。經。世。滿。民
は。彼。へ。富。國。強。之。の。基。を。お。さ。す。ん。も。之。日。其。軍。が
儉。と。ち。り。業。と。勤。む。も。所。謂。財。用。も。こ。お。の。が

うろ大道あり。こまを為すよみのハ疾く。おれを
用ゆるおれの解おれとそりいぞやその詳れ
法とぞ知んとおりの。こ乃三省録と讀むお
お里をこ理高翁の人こありと知んこあも。
念この三省録と讀み存り。天保三年に元こ
らに歲林日。山崎美成しるは。

三省録跋

余嘗讀程齋君之行狀而
知為廉潔之超于衆今又
見此書而得為教言戒鑒古
之要嗚呼昇平之久上下日
趨奢侈勢之所為不可止

也鄉者
官華驕惰之弊過汎濫之
勢故民將滌其舊染而歸
於儉素矣夫驕惰之原皆
起于居處衣食之不節如不
為之禁制使人任私情則吾

未知其所窮極也乃若此編
於救時弊其裨益蓋匪淺
鮮也余友德齋經父之志
今梓之木使人省破家止
身之基生於世三者之戒
也天保十四年癸卯孟春

朝齋

海老名銅撰



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '天保十一年' and '庚子正月']

志賀理齋君暨配野口氏墓碣銘

故金奉行志賀君以天保十一年庚子正月十二日
卒配野口氏以去年己亥十二月念八日卒相距僅
旬餘嗚呼哀哉其子正道余宿友也聞喪往弔哀毀
踰禮正道泣曰吾父母行有偉蹟恐與骨共朽欲煩
子以銘諸墓余曰銘墓重任也余非其人不許明日
具狀固請之遂不得辭乃述其狀曰君諱忍字子堪
小字鍋太郎後稱理助理齋其彌世仕幕府生於
寶曆十二年壬午十一月十日配野口氏生於同年
某月某日夫妻琴瑟相調能脫塵累才德風雅可謂

不相愧者矣其先諱宗儀天正中 神祖伊賀之厄
因土人力以脫急危乃賞其功皆充服部半藏之隊
君居其一焉是為六世祖所謂伊賀者也五世祖諱
智清高祖諱道樹曾祖諱明光祖考諱宗遠無子養
言野氏之子為嗣稱八助諱頓悟以女配之是為考
君生而奇偉早失怙恃孑孑孤立處窮守約專力經
史兼通國書博覽宏通無所不讀恒以著述為樂天
明中隊長達之有司以為 西城伊賀者稱疾不出
閉戶讀書九年試學甲科君與人異撰引國史證之
議論允為明備 官褒以白銀十年為崎陽筆吏蕃

舶輻輳吏之活于珍器奇王者多矣君不欲永在其
地任滿而歸文政中為 內廷筆吏後出為 女公
子美爾君幹吏壬辰之冬入為 大城金奉行併
賜廩米三百苞始昇 幕府世臣之班嗚呼祖宗以
來皆散卒終身君乃能膺掄擢躋膺仕其耀祖垂光
之功豈不大矣哉君之言曰當時習肩之徒出入於
權貴之門多費幣物以為弋利之餌吾未嘗請謁惟
枯魚三尾借金於廩戶其斯而已矣君形自短小而
滑稽多智談笑解紛有東方曼倩之目是以雖身在
官途不以奔競進取為務常娛情於文雅殆所謂避

世金馬門者歟野口氏性愛山水有疾出遊必愈能
詠國歌花晨月夕與君連榻以寫風情嘗拉正道及
一力西遊大和又東赴松島名區勝蹟無不探討凡
係旅遊者十有八次有東西遊記其每出遊必拉正
道君謂夫人曰汝能好遊如斃於道則何如夫人曰
正道在焉何傷也且得其所欲無悔耳由是遂聽其
所往而不止夫妻懷抱之清高如此野口氏將死之
夕自為俳詞君和之並叙其意洒然有達人大觀之
風是為永訣享年七十有八矣既而君亦就蓐皆知
其不可起親戚看護或有合掌禱于神者君聞之曰

數有消長數盡身斃固天之道也勿以煩神為也言
訖而卒享年七十有九矣野口氏舉子甲璋子尾長
女適佐藤氏次女早夭其次千之是為胃子仕為司
計吏次政德出嗣宮川氏次清充出嗣谷城氏次義
胤出嗣念齋原先生之家業儒即正道也嘗謂正道
曰汝未有子而死則誰能展墓吾死之日就原氏之
塋則為吾子孫者彼原子之鬼有所歸遂以郭北吉
祥寺子院洞泉寺為志賀氏安措之場君所著書凡
三十三種理齋隨筆已行于世頃又梓老綠言既就
緒不果而卒君嘗自為私謚曰元是院不生不滅居

士其平素一死生齊彭殤可謂知命矣嗚呼君生于
 舉世奔競之時不假一苞苴起自行間以至于幕
 士求諸近世有幾人矣因係以銘銘曰
 志操清逸 不流緇塵 澹泊是守 寵錫自臻
 室家相和 風姿伸伸 安命俟死 幽明通神
 爰叙其懿 勤此貞砥 風霜雖蝕 名則不淪
 天保十一年歲次庚子春二月

海老名綱謹撰 關根為寶敬書
 哀子志賀千之原 義胤同建

石工真龜堂鑄



理齋志賀先生著述目錄

三省錄	成刻	五卷	筆塵	四卷
理齋隨筆	初編成刻	百卷	祝融錄	三卷
長崎旅日記		壹卷	同飯路日記	壹卷
日光紀行		壹卷	真間紀行	壹卷
衣更著紀行		壹卷	彌生之夢	壹卷
理齋戲草		五卷	信綱錄	戴卷
耳之枝折		十卷	續武篇類聚	五卷
袖之時雨		戴卷	御苑之記	壹卷
理齋日新錄		卅卷	埋木物語	五卷

理齋先生著述目錄

官歌録	五卷	夢之跡	貳卷
老録言	拾貳編	燕雀談	貳拾卷
藥法伊呂波韻	七卷	霄あがら記	壹卷
朝鮮記補漏	十二卷	聖堂 試文 ゆるり	壹卷
勸學文和解	壹卷	忍草	貳卷
滑稽叢話	五卷	坐間滑稽	壹卷
理齋狂歌集	貳卷	同狂文集	五卷
我庵話	壹卷		

青雲堂藏板目錄

江戸下谷海成道

英文藏

中井藤樹先生著
翁問答

四冊

藤樹先生傳學宏才ヲ以テ徳ニ入ルベキコトヲ旨トシ和漢ノ故事ヲ多ク引テ人倫日用ノ教トナルベキヲ專ニカサ各ニセラシタルニシテ且才モシロキ隨筆ナリ

清嘉録

五冊

コノ各ハ唐土ノ年中行事ニシテソノ國風ヲマノアタリ見ルカ如ク清俗紀開ト同ジオモ△キニシテ加ルニ民間ノ景物ヲクハシク記シタレテ學文ヲ助ケ詩文ヲ作ルニ大ニ益アリ

香菴集

一冊

コノ詩集ハ閨中ノ柔情嬌態ノ作ニシテ錦繡ノ才子散賞スベキ者ナリ

清吳孟華選
宋四靈詩鈔

二冊

宋ノ永嘉中詩作ノ名人四家ノ詩ヲ合セ撰ミシナリサレバソノ作意世ノ常ナラス句句コトニスグレテ高ク讀ムモノラシテ駭絶歎シテ自ヤムコトアタハサラシムルホドノ妙作ナリ

虛字啓蒙

王潤州著

合一冊

詩用虛字 北山先生著
此ニ各ハ詩文トモニ虚字ヲ用フルコト尤難シモニ誤リ用ルトキハ文ハ語ヲ成サス詩ハ意ヲ失フコト少カラズ僅々ノ小冊子トイハドモ虚字ヲ説クコト簡ニシテソノ要ヲ悉クト云フベシ

和漢朗詠集

寸珍本 一冊

隸書醉翁亭記

一冊

書錦堂記 石鼓歌 前後赤壁賦

周公論 隸書ノ法トスベキモノ漢碑ニシカズ然レドモ
フノ世ニ傳フルモノ少クシテ得ヤスカラスコノ頃
古帖中ニ於テ宋文隸各一帖ヲ得リソノ字
体漢隸ノ規則ヲ失ズ実ニ各家ノ至宝ト
スベシ

名乗字引

一冊

其名ノ訓ハ古來讀法アリテ或ハ訓ニテリ
或ハ義ニヨレルモノアリバ假名付ナキモノハ
タトヒ學者トイヘトモタヤスク讀ミ得ルヲ
カタシサレバ古今名乗字ヲ集メ画引トシ
ヨミコエラ記シ便覽ニ備フ

掌中三體詩

一冊

昔昔春秋

一冊

優軒先主文章一時ニ傑出ストイヘトモ傳
フルモノ至テ希ナリコノ編ハ昔々ノ挑太原ガ
鬼カ島ヲ伐トシテ童話ヲ本トシ機變合
戦狸ノ土舟ホノムカシ談ヲトリ合セテ春
秋ノ体ニ作意セシ戯文ナリ然レトモソノ
文法高古ニシテ文章家ノ覽ニ充ツベキ名
文ナリ

蘭竹畫譜

三冊

九画ヲ字テ人蘭竹ヲモテ先キトスルヲ
手習フモノ、永字訣ヲ字テ二画ニ蘭竹ハ
一点二画ニ法アリテ千体万形コレクニナ
備ハレリ芥子園十竹斎ノ外古今ノ画譜
中ヨリ達人ノ趣向ソノ位置ノ允ナラザルヲ
三ハ集メタルコノ譜ヨリテ字ハ師ヲ
標ズシテ一家ヲ為スベシ

土佐日記考證

二冊

此書ハハツキ恒持ニ在リテありト云ヒ
後志北雜記トシテ多ク々々考證シテ其
名ありんノ説トスルハ又自ノ説トシテ
異本考證トシテ校合ノ考證トシテ

後撰和歌集標註

四冊

葵沖阿蘇梨の巨木園翁此考考するを
園宗因乃考里ありき本まで流布の
本あり云ねるをも多く且諸本を校合
し其同とあけ増減と加へ

蓼太俳諧發句集

六冊

發句類聚

二冊

芳野道乃記

一冊

昭乗翁と大徳寺を最老と云ふべく芳
野の花見子終るれり耐の及れ記あり云
ハ昭乗翁自筆もく流布此本を第一
此書あり且又文章も一家の風格あり
死後と云ふたよりともあふべき書あり

歌學指要

一冊

三條教重の遺著宮部大人のあつた
字の體格の中あり初學のよきそ益あり
とこそと抄出しく門人子守りし
うハ世子守えり人の妙論を説く
書子守りしと云ふ

佛鬼軍

一冊

大徳の足跡あり極楽の地獄とを合我り此
里の自筆乃画詞あり

手柄岡持大人著
我おとろ

二冊

程方程又おまの程訪假名活中と集め
るも程持大人の家乃集ありいづれも程の
のどくを興ある中子孫前と中附修善
此程方の書ありと子わりのききとのて
程方子集りあらん人らあらず性すしを
くつきぬきあり

六樹園大人著
都乃さざり

一冊

江戸にて遊玩すまじ比の中ありと子孫
まじ稽考のありやと和文まじりか
く子孫れり名文あり

教訓亭主人著
教訓圖會

一冊

言能世の教訓とありまきと選まきそ
の意とあまきまきとのまきりやまきんと
とあまきとまきりとい面白き冊子あり

山崎美成大人著
八部抜講釋

一冊

八部のまきり八中抜とまきり外子七種
の抜とまきり一六毎朝唱づく神おまき
神ありその神は恒持多し一六もまきり
一六もまきり耳をくまきり安きやう子記
たりとまきの書ふまきりそのまきり

曲直馬琴公羽著
雅俗要文

一冊

この書を流布の用文章子とまきりま
雅俗乃意同考位此に著俗中子雅とま
一へ雅云子俗ありとまきりまきりいづれも
妙文あり中子小文中子未未後の補あり
まきり教訓とまきりおまきり人としておまきり
おまきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり

神代卷 校正本

一冊

柳里恭先生著
雲萍雜志

四冊

此書の作者柳里恭先生を世子とまきり
風流文雅ありとまきり世時人傳子
一とまきり世の制とまきり世の制とまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり

山崎美成大人隨筆
世事百談

四冊

先生曾て金枝子系居のまきりまきり
燈ありまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり

伊勢安奇先生著
平義品談

一冊

伊勢安奇先生著
平義品談
一冊

柳菴栗原先生著
柳菴雜筆

四冊

まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり

柳菴栗原先生著
刀劍圖考

一冊

柳菴栗原先生著
刀劍圖考
一冊

山崎美成大人著
名家畧傳

四冊

山崎美成大人著
名家畧傳
四冊

井上貫流先生著
甲冑著用辨

二冊

甲冑著用辨を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後

柳亭種彦翁著
用捨箱

三冊

用捨箱を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後

柳亭種彦翁著
鞍鏡新書

二冊

鞍鏡新書を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後

同筆
歸田賦

一冊

同筆
蘭亭帖

一冊

柳正敬筆
庭訓往來

一冊

庭訓往來を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後

安見道中記

一冊

天明大雜書

冊

天明大雜書を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後

惠賢理翁著
三省録

五冊

三省録を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後

柳正敬筆
續武將感狀記

十冊

續武將感狀記を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後

三世一心記

一冊

不動智

一冊

日蓮一代記

二冊

生花衣乃香

一冊

生花四季圖

一冊

本草和名

二冊

如藤在止翁著
太平國恩俚譚

五冊

太平國恩俚譚を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後
漢書雜考を以て甲冑の著用ハ皆後



大學章句

序多分

一冊

晚唐百家絕句

五冊

館柳清先生著
晩唐の詩作をまとりて、豪華奇詭、峭峻、森密、麗、靡、を、こまかく、分類、し、名家の、詩、句、を、一、人、の、七、言、絶、句、の、と、み、あ、り、し、る、ま、じ、と、し、る、と、名、の、中、に、所、し、る、は、百、家、必、後、の、ま、じ

唐土名所之画

一册

北斎老人画
唐土の名所、山川、名物、を、一、一、に、畫、き、終、り、し、る、ま、じ、と、し、る、と、名、の、中、に、所、し、る、は、百、家、必、後、の、ま、じ

竹沙小品

一冊

花鶴百人一首

一冊

女今川

一冊

青雲古状揃

一冊

消息往來

和泉屋、手、本、の、

一冊

滴賣往來

和泉屋、手、本、の、

一冊

書状用文

一冊

世話千字文

一冊

世話千字文講釋

一冊

和泉屋、手、本、の、

官許天保十四年正月

志賀理助 著

原 三右衛門藏板

横山町三丁目

和泉屋

金右衛門

江戸下谷御成道

英文藏

發行書林



幾行書林

乙未上巳日

英大

英大

英大

原三女書

志賢

守信天爵十四年

英大

